



即時型食物アレルギー調査結果



2002年4月に、「平成13年度・厚生労働省食物アレルギー研究班・全国食物アレルギー即時型反応疫学調査結果(主任研究者:昭和大学小児科・飯倉洋治教授)」が発表され、結果は以下の通りでした。当院も2000年度より本研究の調査対象医療機関になっており、既に数例報告しています。



集計対象は2434例でした。内訳は、男57.0%、女42.3%、不明0.7%でした。年齢分布は、0歳が29.8%、1歳が17.8%で、0-1歳だけで全体の47.6%を占めていました。以降加齢とともに漸減し、6歳までに75.5%が、8歳までに79.7%が集積していました。一方、20歳以上の成人も10.7%に達していました。



抗原別頻度は、鶏卵37.5%、牛乳12.7%、小麦8.5%、フルーツ5.4%、ソバ4.7%、魚類4.5%、エビ4.3%、ナッツ類3.6%、魚卵2.3%、肉類2.1%、大豆1.9%、ヨーグルト1.5%、チーズ1.3%、カニ1.0%、イカ1.0%、イモ類1.0%でした。

・フルーツの内訳は、キウイ37名、バナナ25名、メロン14名、モモ14名、ブドウ6名、リンゴ5名、サクランボ5名、イチゴ5名、以下オレンジ、マンゴ、パイナップル、ナシ、グレープフルーツ、レモン、ミカン、プルーンなどでした。

・魚類の内訳は、サバ18名、サケ1名、マグロ7名、アジ6名、イワシ6名、タラ6名、以下ウナギ、タイ、ブリ、ホッケ、サンマ、カマスなどでした。

・魚卵の内訳は、イクラが46名で大多数を占め、以下タラコ、カズノコなどでした。

・肉類の内訳は、鶏肉22名、豚肉15名、牛肉8名、鴨肉3名、羊肉1名でした。

・ナッツ類の内訳は、ピーナッツ54名、クルミ16名、アーモンド5名、カシュナッツ5名、以下マカダミアナッツなどでした。



症状は、皮膚症状(蕁麻疹、かゆみ、紅斑)が88.1%、呼吸器症状(咳、呼吸困難、喘鳴)が26.6%、粘膜症状(口唇浮腫、眼瞼浮腫、口咽頭搔痒感)が23.1%、消化器症状(嘔吐、腹痛、下痢)が12.8%、ショック症状(ぐったり、顔面蒼白、血圧低下、意識障害)が11.1%でした(重複回答あり)。

・ショック症状を呈した抗原は、鶏卵64名、乳製品56名、小麦44名、ソバ16名、エビ10名、ピーナッツ10名、イクラ6名、キウイ5名、バナナ4名、モモ4名、大豆3名、イカ3名、ヤマイモ3名、カニ2名、豚肉2名、ウメ2名、ブリ2名、その他19名でした。



該当抗原に対するRAST値は、Class表示で、Class0が11.8%、Class1が7.0%、Class2が22.5%、Class3が29.1%、Class4が14.7%、Class5が7.4%、Class6が7.4%でした。



来院後の処置は、外来治療で改善が85.9%、入院の必要な場合が12.4%でした。



食物アレルギーには十分しまししょう。心当たりの食品がある場合には検査が必要な場合があります。いつでも御相談ください。